

vol.46-12 (通算 525号)

2017年3月号

やどかり

2017年3月15日発行

(毎月1回15日発行)

1987年12月19日第三種郵便物認可

発行人 公益社団法人やどかりの里

代表者 土橋 敏孝

〒337-0043

さいたま市見沼区中川 562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

定価 50円 (含会費)

これからのビジョンを考えよう

～平成28年度 やどかりの里 総括会議を終えて～

2月18日(土)、やどかりの里の1年の活動を振り返り、私たちの取り組みを再確認し、また取り巻く環境(情勢)の理解を深めるために、今年度はメンバー、家族、職員など過去最大数の74名の参加によって総括会議が行われた。

今年度の総括会議は、例年までの内容とは異なり、この1年間の活動の総括だけではなく、やどかりの里設立50年を見据えた「新たなビジョンづくり」がテーマであった。活動の節目として、おおよそ5年ごとに将来に向けてのビジョンを策定し、それを目標としながら、また絶えずものさしとして計りながら、活動を続けたきた。その意味においては単なる年度振り返りと次年度の取り組みに向けた「総括会議」ではなく、長期的視点に立って「将来」の具体的なビジョンを描き出すための過程として捉えられる総括会議となった。

内容としては、情勢報告とグループ討議、今年度の大きな取り組みとして「第20回日本健康福祉政策学会学術大会 in 埼玉」(共催して取り組んだ)において発表したポスターセッション(壁新聞)を通して、私たちの実践を確認した(機関紙12月号)。

情勢報告では「社会保障の質的転換の局面に」と題し、戦後の社会保障制度審議会における勧告から80年代の新自由主義の台頭と財政再建、90年代バブル期以降の社会福祉基礎構造改革の流れ、2000年以降の聖域なき構造改革と経済財政諮問会議における財界によるダイレクトな政策転換、2010年以降の社会保障と税の一体改革

による、さらなる公助(国の責任)の後退、という国の政策の流れを再確認し、これまで行われてきたこと、現在行われていること、これから進められようとしていること、を共有した。財政面でのみ語られる社会保障の縮小、削減ありきの今後のわが国の方向性がありありとうかがえる報告であった。

一方で、政策学会におけるポスターセッション発表を再現した「やどかりブックレット」「メンバー交流会議」「浜砂会」「おやじの会」「二つの調査報告」「健康PT」「ダイエットプログラム」「たたみの会」「とも育ちの文化」「やどかり農園」「市民会議」の11題の各報告からは、人が集まり、人と人とのつながりによって、これまで続けてきたやどかりの里の活動のエッセンスが話された。

政策学会に共催として運営に参加した大きな理由の1つとして、先述した「新たなビジョンづくり」があげられる。専門分野や立場をこえたさまざまな人たちとの企画・運営を通して、私たちの活動を発信し、対話し、学習を重ね、共感を得ながらこれからの展望を開く、という一連のプロセスこそが、このプロセスを積み上げてきた結果が私たちやどかりの里であり、私たちの活動の本質である、と考えている。

国や行政、社会の流れを絶えずとらえながら、「これまで」の私たちの活動と、私たちの考える「これから」を意識し、活動を継続していく、これらのプロセスを多くの仲間と共有し、共感を得ながら具体的なビジョンを描きだしたい。